

2025年度決算 会社説明会 社長挨拶

<2025年度決算および2026年度業績見通し、配当方針>

2025年度の連結決算は、島根原子力発電所2号機の稼働や需要獲得による総販売電力量の増などの収支改善はありましたが、卸・小売事業における競争進展や送配電事業の利益減などにより、営業利益902億円と前年度に比べ389億円の減益となりました。

2026年度の業績予想については、足元で高騰している燃料価格が年間を通じて高止まりすることを前提に、経常利益を400億円、純利益を310億円と見込んでいます。

今後、中東情勢をはじめとした事業環境の動向を注視し、リスク管理のさらなる高度化に取り組むとともに、電力需要の獲得、島根原子力発電所の安定稼働、市場の価格変動を捉えた取引による収益獲得や経営全般にわたる効率化など、業績の改善に向けて取り組んでまいります。

次に、配当についてご説明いたします。2025年度の配当につきましては、配当の安定性や予見性を重視し、年間配当金は配当予想としてお示ししていた1株あたり27円を据え置き、期末配当金は1株あたり17円とさせていただきました。

2026年度以降の配当については、財務基盤の回復過程においても株主の皆さまに安定的な配当を行っていく趣旨から、株主資本に応じて配当を行うDOEの考え方を導入し、島根3号機の営業運転開始までは、DOE2%を目指しつつ財務基盤の回復状況などを総合的に勘案して決定する予定です。2026年度は、この方針に基づき、年間配当金を1株あたり30円とする予定です。これは、DOEベースでは、1.5%程度の配当水準となります。

<中期経営計画の取り組みについて>

次に、PBR向上に向けた新たな中期経営計画「Action Plan 2030」について、策定にあたっての考え方や、計画に込めた私の思いを申し上げます。

「中国電力グループ経営ビジョン2040」では、2026年度から2030年度の5年間に、ビジョンの実現に向けた第一段階として、経営基盤を回復させるステージから一歩踏み出し、「持続的成長に向けた変革と基盤づくり」を力強く進める期間と位置付けています。このたびの中期経営計画は、この5年間にターゲットとした実行計画として策定したものです。

今後、電力需要の増加が見込まれる中、将来の成長を確かなものとするため、島根原子力発電所3号機および柳井発電所新2号機の建設、次世代送配電ネットワークの整備など、長期的な価値創造につながる大型投資を着実に進めてまいります。

一方、現状、当社の株価およびPBRは、将来的な成長性や収益力を十分に織り

込んだ水準にあるとは言えません。その要因を真摯に受け止め、今回の中期経営計画では、R O I Cを中心とした資本効率の改善を計画の中核に据えました。

これからは原子力発電所の安定稼働などによる確実な収益創出とともに、事業ごとの収益性と資本コストを意識した規律ある投資判断を徹底することで、企業価値を高めてまいります。また、国の認可法人であるGX推進機構の債務保証を活用した資金調達を継続的に行うことで財務基盤を安定させ、WACCの低減にも努めてまいります。

<おわりに>

以上、PBR向上に向けた新たな中期経営計画の取り組みについてご説明しました。

本日、皆さまから頂戴するご意見についても、経営でしっかりと議論し、中期経営計画の実効性向上や開示の充実化につなげていきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

以 上